

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和6年度 技術情報第15号（普通期水稻のコブノメイガ）について（送付）

普通期水稻のコブノメイガについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/>) にも掲載しています。



令和6年度 技術情報第15号

普通期水稻でコブノメイガの被害が見られ始めています。クロラントラニリプロールを含む箱粒剤の効果が低下しており、今後、被害が拡大する恐れがあります。そのため、ほ場を見回り、被害葉が散見されたら、下記の項目5を参考に適切に防除を実施してください。

1 対象病害虫 コブノメイガ

2 対象作物 普通期水稻

3 情報の内容

- | | |
|----------|--------------|
| (1) 発生地域 | 普通期水稻地帯（県本土） |
| (2) 発生時期 | 分けつ～節間伸長期 |
| (3) 発生量 | やや多 |

4 予報の根拠

- 7月9日～23日の巡回調査（25地点50ほ場）において、発生面積率22%（平年17%）で平年並みであったが、発生程度が中発生ほ場を認めた（表1）。
- クロラントラニリプロールを含む箱粒剤の防除価（被害葉率）は、令和6年（移植43日後）が26.7、令和5年（移植43日後）が37.5で、被害抑制効果は低かった（表2）。

5 防除上注意すべき事項

- 6月25日の飛来に由来する第1世代成虫の発蛾最盛日は7月27日頃、7月9日の飛来に由来する第1世代成虫の発蛾最盛日は8月9日頃と予測される（図1）。水田での粒剤による防除は発蛾最盛日、粉剤または液剤による防除は発蛾最盛日の3日後と10日後に行う。
- 止葉を含む上位3葉への被害は収量・品質に影響するので、今後、コブノメイガ成虫の発生が多い場合は、第2世代幼虫を対象に防除を行う。

6 参考データ

表1 コブノメイガの発生状況（令和6年7月9日～23日調査）

地域 ^{注1)}	調査 ほ場	程度別発生ほ場数 ^{注2)}					発生面積率 ^{注3)}	
		甚	多	中	少	無	本年	平年 ^{注4)}
南 薩	6	0	0	0	4	2	67	25
北薩平坦	20	0	0	1	1	18	10	19
北薩山間	18	0	0	0	7	11	39	16
大 隅	6	0	0	0	0	6	0	10
県全体	50	0	0	1	12	37	22	17

注1) 地域別の調査地点は下記のとおり。なお、1地点につき2ほ場を調査

南 薩：南九州市1地点、いちき串木野市1地点、日置市1地点

北薩平坦：出水市2地点、阿久根市1地点、薩摩川内市3地点、霧島市2地点、始良市2地点

北薩山間：薩摩川内市1地点、伊佐市3地点、さつま町4地点、湧水町1地点、

大 隅：鹿屋市2地点、曾於市1地点

注2) 発生程度基準は下記のとおり。

甚：被害株率91%以上

多： " 61～90

中： " 31～60

少： " 1～30

無： " 0

注3) 県全体の発生面積率は、地域の栽培面積を勘案して算出

注4) 平年は、平成26年～令和5年までの10年間の平均値

表2 コブノメイガに対するクロラントラニプロールを含む箱粒剤の効果の比較

供試薬剤	処理量 処理時期 処理方法	令和6年7月24日（移植43日後）				令和5年7月19日（移植43日後）			
		調査 葉数	被害 葉数	被害 葉率	防除価	調査 葉数	被害 葉数	被害 葉率	防除価
クロラントラニプロール 箱粒剤（0.75%）	50g/箱 移植当日 育苗箱施用	9,660	105	1.1	26.7	9,960	52	0.5	37.5
無処理	-	9,660	147	1.5		10,275	77	0.8	

注1) 試験場所：農業開発総合センター内水田 品種：ヒノヒカリ（令和6年，令和5年）

注2) 試験実施機関：農業開発総合センター病理昆虫研究室

注3) 移植日：令和6年6月11日，令和5年6月6日

注4) 試験方法：移植当日に供試薬剤を育苗箱に施用し，移植43日後1区約3300葉（3反復）の被害葉を計数

注5) 調査葉数，被害葉数は3区合計の値

注6) 供試薬剤：クロラントラニプロール箱粒剤（商品名 ビルダーフェルテラゼクサロン粒剤）

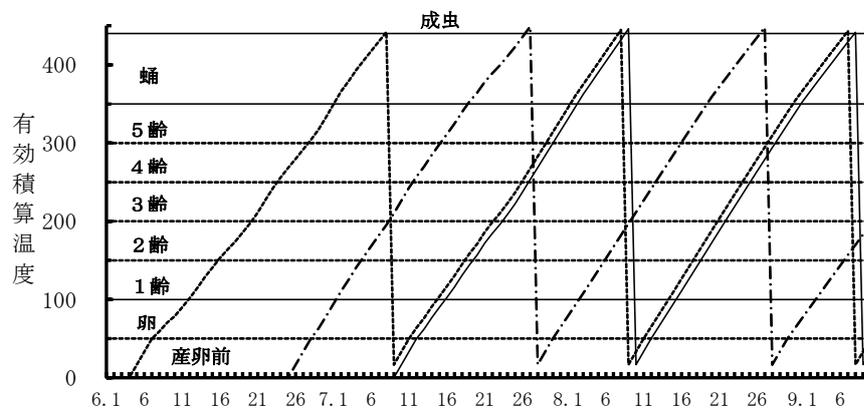


図1 コブノメイガの有効積算温度による発生経過予測図

注) 気温は、加世田のアメダスポイントデータを利用（7月25日まで実測値，それ以降は平年値）

なお、気温の低い地域では予測より2～4日程度遅延